



# 暁鐘の音

NO. 32

(かねのね)

秋田大学教職大学院 2024.11.29

## はじめに

第32号では、「秋の思い出」をはじめ、今年度の「全県指導主事会議」「惟蔭の会」「教員採用試験」「課題実地研究」といった、様々なテーマについての原稿を頂戴しました。どうかお楽しみください。

## 思い出の駅伝大会

教職実践専攻（教職大学院）

特別教授 加藤 勝則

昭和57年入学の数研は39名の在所帯で、物好き遊び好きの集まりだった。パソコンもネットもない時代、酒を飲んだり、麻雀をしたり…、休日には海水浴やなべっこに出かけた。また、バレーボールやバドミントン、テニスなど合宿と言ってはどこかの運動施設で練習に励み(?)、数研気合組の名で全学の球技大会に出場するのが一つの楽しみだった。4年生の秋、駅伝大会に参加しようということになった。当時の駅伝大会は、大学の正門から仁別国民の森まで、最低でも2kmはある往復10区間で争う大会だった。私はバスケットボール部に所属していたが、日頃体を動かしていない者にとっては、酷な大会である。必死に抗う仲間を説得し(私ではありません)、大会の1ヶ月ほど前から練習が始まった。最初は数百メートル走ってギブアップする者も。「高地トレーニングやるぞ」という誰かの呼びかけに「コーチって誰呼ぶ?」という始末。優勝が至上命令の体研、毎年上位入賞の硬式テニス部などが強敵で、その他運動系の団体、医学部や鉱山学部のチームなど、30チームくらいが参加していた。私が任せられた区間は、最長の第7区。下り坂が多いとは言え7.8kmもの距離を走るの、この時が最初で最後である。

大会当日は、紅葉がまぶしい見事な秋晴れだった。8位くらいでたすきを受けただろうか。前方に目標となる選手が程よい間隔でいて、追い抜く快感を味わいながら走り続けた。ランナーズハイという言葉は知らなかったが、そんな感覚だった。伴走者は、原付のスクーターで後ろを走っていた。カセットテープレコーダーから山下久美子の「赤道こまちドキッ」が何度もリピートされる。振動によるものなのか、電池がなくなってきたのか、時折狂うリズムにもめげず、必死に走り続け2位でたすきを渡すことができた。結果は体研に次ぐ準優勝と大健闘。おまけに区間賞もいただいた。奮発して千両寿司で行った祝勝会、大いに盛り上がり乾いた体にビールが沁みた。毎年この時期になれば思い出す格別の思い出である。



## 秋の思い出「キノコ採り名人 現れる！」

教職実践専攻（教職大学院）

特別教授 千葉 圭子

私の父は、山菜採りを何よりの楽しみにしていました。春には、ワラビやゼンマイ、タケノコなどを採りに、秋には、キノコを採りに山に行きました。今でも思い出されるのは、マイタケを採ってきたときの父の喜びようです。マイタケをそっと抱きかかえて家の中に入ると、家族全員を呼び寄せて、マイタケ様を座敷の中心に鎮座させ、その周りを踊ってみせたのです。まさしく、舞茸。あのときの光景と天然舞茸の香りは未だに私の脳裏に焼き付いています。私が小学生になると一緒に山に連れて行ってもらえるようになりました。山に行くと空気が美味しく、ひっそりと咲く野草も美しく、野ウサギやリス、時々ヘビにも会うことができました。カッパを着て、長靴を履いて、ぬかるんだ道を歩きます。ヒルにかまれることも、蜂に刺されることもありましたが、山は、私にとって、わくわくするワンダーランドのようでした。父も自分の好きな場所（山）で、娘と一緒に山菜を採ることはとても嬉しい時間のようで、いつも優しく微笑み、白い歯を見せていました。何度も連れて行ってもらおうと、目が慣れてきて、草も木も関係なく、山菜のみが目に入るようになってきます。父はそれを「圭子も山

の目になった。」と言って褒めてくれました。

中学校に入ると部活もあり、一緒に山に行くことはなくなりました。漆の木にかぶれてしまったことも要因だったかもしれません。その後、高校に入学して、秋になった頃、学年の太平山登山がありました。1年の生徒全員と先生方が一緒に太平山を登るのです。みんなが山を必死で登り、疲れ果てた状況で下山する中、私は、発見してしまったのです。キノコの群生地を。山の目が起動したのです。種類は、サワモタシ。味噌汁にすると最高にうまいキノコです。当然、誰も気が付いていません。意を決して声に出しました。「先生、キノコを発見しました！」私の指す方向に周りのみんなが目を向けました。先生が「よし、今井（旧姓）について、みんなでキノコ狩りをしよう」とおっしゃってくださったこともあり、私がキノコの場所を教えたり、採り方を教えたり、最後には味噌汁の作り方までの伝授しました。次の日の学年通信のタイトルは「キノコ採り名人 現れる！」学年通信を見て、父がマイタケを採ったときのように大喜びしてくれたのを今でも覚えています。大切な秋の思い出です。

## 秋の思い出のあれこれ

学校マネジメントコース

現職院生1年次 高橋 政樹

夏休みが終わると、前期後半（2学期）が始まります。校種や学校によって、学校行事やイベントは違いますが、秋にはワクワクすることがたく

さんあります。一小学校教員の秋の思い出について語らせていただきます。

### 1 「食欲の秋」なべっこ会

地域によって様々だと思いますが、秋田県の県南部では、秋の味覚として「芋の子汁」があります。この「芋の子汁」を学校行事として作るのが、なべっこ会です。多くの学校では、縦割り班での活動になります。この日の子どもたちの表情がとても素敵なのです。下級生の面倒を見ながら、リーダーシップを発揮する高学年の子どもたちの姿が頼もしいのです。子どもたちの思いがこもった芋の子汁は、味はどうあれ、とってもおいしく感じるのです。

### 2 「芸術の秋」学習発表会

それぞれの学年のカラーが出る学習発表会。私は、台本のほんの一部しか考えません。台本のほとんどを考えることで、子どもたちは主体的に取り組みます。グループごとにそれぞれの場面を創るのですが、子ども同士がもめることもしばしばです。苦勞して台本を考えているとき、真剣に練習をしているとき、全力で発表をしているとき、発表後の満足感いっぱいの顔をしているとき、そんな子どもたちを見ることが、私は大好きなのです。

### 3 「勉強の秋」研究会

秋になると、たくさんの研究会があります。研究主任をしていたとき、市の公開研究会がありました。このときの研究会は、全員授業。研究主任としての役割がありながら、自分の授業の準備を

しなければなりません。「自分では無理なのは」と思ったり、あまりの忙しさに泣きたくなくなったりしました。でも、何とかなりました。研究会が終わったとき、「研究主任、やってよかったあ」という成就感と満足感でいっぱいでした。全職員が一丸となり、「チーム学校」で取り組んだからこそ、この気持ちを味わうことができたのだと、仲間に心から感謝した瞬間でした。



知

学校マネジメントコース  
現職院生1年次 鎌田 勉

入学式がつい先日のように感じるが、もう11月。この原稿依頼を受け考えたが、4月の全県指導主事会議の事は、少々遠すぎる。悩ましい。ただ、せっかくの機会をいただいたので、その時の学び（生徒指導・社会科教育）について、書いてみようと思う。

令和6年度の生徒指導上の課題と指導の重点について

各課・教育委員会、教育事務所において、県の教育行政施策の重点、生徒指導関連の重点項目についての理解及び共有が図られた。県政運営の指針である「～大変革の時代～新秋田元気創造プラ

ン」については、その理念を受けて本県の教育が進められていることを改めて確認することができた。

次にスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活用時間の増加について、予算との兼ね合いで苦慮していることが共有された。相談できる生徒は手を差し伸べ支援できるが、相談すらできない生徒の中に困りごとを抱えて悩む生徒がいる。その生徒に寄り添い支援するためには、学校全体で行う発達支持的生徒指導は、有効なのではないかと思う。

### 「学校教育の指針 令和6年度の重点」を踏まえた今年度の社会科指導

本年度の重点を踏まえた指導の在り方について協議された事項を、各校訪問時に情報提供したり指導に生かしたりしていることを知った。丁寧な協議により方向性の一致が図られ、本県の社会科教育が学年・校種を問わず一貫して実施できることに繋がっていることを理解した。

高校教育課からは、資料を基に根拠をもって議論を深める授業が見られる一方で、問いの立て方や資料の提示の仕方に課題が見える授業もあるとの指摘があった。今後、組織的な授業改善を進める体制づくりに生かしたいと思う。

我々現場の教員は、指導主事の仕事を知らなすぎる。会議で、各々が一言一句に力を込め、魂の報告をしている姿を目の当たりにして、自身の至らなさや覚悟の無さを痛感し、身が引き締まる思いであった。

自身のことを考えるに、五十にして天命を知るところか、感いっぱなしの教職大学院生活である。しかし、温かく教え導いてくださる先生方と、若い感性で刺激を与えてくれるストレートマスターの皆さんのおかげで、なんとか頑張っている。そして何より、笑い合い励まし合い、時に挫けそうになりながらも、共に歩んでくれる現職の仲間たちに支えられながら、毎日の学びを深められていることに感謝を示しつつ、筆を置きたいと思う。

## あきた惟蔭の会納涼祭の感想

発達教育・特別支援教育コース  
学部卒院生2年次 伊東 大樹

令和6年8月9日(金)に令和6年度秋田大学教職大学院あきた惟蔭の会納涼祭が開催されました。この納涼祭は言い換えると、秋田大学教職大学院の同窓会です。場所は、大学会館研修室(学食がある建物の2階)で行いました。県内外から60名を超える方々が参加してくださいました。私は、納涼祭の企画や運営に携わりました。今回の納涼祭を成功させるために、実は大きく2つの作戦を立てていました。

### 作戦① 高級焼肉弁当

従来秋田大学教職大学院での飲み会では、オードブルを注文し、それぞれの参加者が好きな料理を自由に取って食べる形式でした。今回の納涼祭では、一人一人にカルビと牛タン焼肉弁当を用

意しました。一人一人に高級焼肉弁当を用意した理由は、フードロスを減らすためです。実際に納涼祭では、食べ残しが少なく、作戦大成功となりました。SDGsに基づいた納涼祭となりました。

### 作戦② 多彩なドリンク

日本酒、ビール、ワイン、ノンアル、ソフトドリンクなど、様々な種類のドリンクを用意しました。納涼祭直前に注文していたお酒が届かないハプニングで気持ちが焦りましたが、真夏の暑い日にキンキンに冷えたドリンクを飲むことができました。最高でした。

最後に、納涼祭では学校現場で働かれている修了生の方々からお話を伺うことで、教職大学院在学中にやれることには積極的に挑戦したいという





